

大学英語授業における「ラウンド制指導法」に

基づく 4 技能を統合した指導

笠 巻 知 子

<要旨>

「ラウンド制指導法」(鈴木, 2007)は, コミュニケーション能力と大学入試に対応できる学力の両方を養成することができるとして, 主に中学校および高等学校における英語教育において実践されている指導法であるが, 大学英語教育において実践されている報告は少ない。本稿では, 「ラウンド制指導法」の概略および, 大学英語教育の目指すコミュニケーション能力の育成と英語力の向上させるための指導方法として, 「ラウンド制指導法」に基づいた 4 技能の指導を 4 か月間にわたり指導した実践例を報告する。

キーワード: ラウンド制指導法, 大学英語教育, コミュニケーション能力, 4 技能, 実践

1. はじめに

近年のコミュニケーション重視の英語教育により, 高等学校では, 4 技能をバランスよく育成し, さらに発信力を強化する指導に変わりつつある。そのような変革の中で, 大学教育における英語学習も重要な位置を占めるようになってきた。大谷・ミューリ(2021)は大学 1 年生 120 名に対し, 大学生の英語授業と英語学習に対する意識調査を行った。その結果, 学生は大学での英語教育において最も不得意と意識している「話す」能力を一番向上させたいと考えていると報告している。本学の学生においても同様のことが考えられる。

以上のことから, 筆者は, このような現状を踏まえ, 本学の大学英語授業で採用されている 4 技能を統合したテキストを使用し, 学生のコミュニケーション能力を向上させ, また同時に英語力をしっかり定着させることができる指導法を模索していた。ラウンド制指導法は, 4 技能を統合してコミュニケーション能力を育成するとともに, 大学入試にも対応できる英語力を養成することを目指す指導法(鈴木, 2007)として, 主に中学校および高等学校における英語教育において実践されている方法である(藤田, 2012; 2013; 2020 他)。大学における英語教育として, ラウンド制指導法が実践されているとの報告は, 筆者が調べた限りでは見当たらなかった。

本稿では、大学における英語授業で使用される教科書を用いて、筆者が実際に行った「ラウンド制指導法」に基づいた4技能の指導実践例を報告する。

2. ラウンド制指導法とは

鈴木（2007）は、ラウンド制指導法とは、「多様な方法を用いて、いろいろな角度から1つの教材を学習させる指導法」とであると定義づけている。その特徴として、「リーディングを中心に他の三つの技能も伸ばし、コミュニケーション能力と大学入試に対応できる英語力の養成に効果を発揮する」ことを挙げている。その理由として、ラウンド制指導法は、「表面的な言語活動ではなく、ことばによるコミュニケーション能力の基礎となる言語処理能力を伸ばすことができる」からとしている。

藤田（2020）は、ラウンド制指導法は、4技能の統合的指導法であり、文章の内容を理解したことに基づいて発信する指導であると述べている。そして、指導する教員が、学生の英語力や教材の難易度に応じて、ラウンド制指導法をカスタマイズする必要があると指摘している（藤田，2012）。

3. ラウンド制指導法の指導過程

表1に鈴木（2007）によるラウンド制指導法の指導過程を示す。

表1 ラウンド制指導法の指導過程（鈴木，2007）

第1ラウンド	内容の概要理解
第2ラウンド	内容の要点理解
第3ラウンド	内容の細部理解
第4ラウンド	文構造の言語材料の説明と理解
第5ラウンド	音読による内容理解と言語材料の内在化
第6ラウンド	和訳と音読による言語材料の内在化
第7ラウンド	音読による言語材料の内在化とリプロダクション
第8ラウンド	復習
第9ラウンド	コミュニケーション活動

4. ラウンド制指導法による授業をする上での留意点

以下に、鈴木(2007)によるラウンド制指導法を成功させるための留意点を4点記す。

1. ラウンド数は教材内容によって変わる。
2. 授業は「全体から部分へ、部分から全体へ」という流れを必要に応じて繰り返す「循環形式」で行う。
3. ラウンドの組み方は「理解から発表へ」が原則である。
4. 生徒自身が言語情報処理を行って教材内容を理解できるように工夫する。

以下に具体的な工夫を7点示す。

- ① 英文の内容に関する設問をいくつも用意する。質問は、次の3つの観点から作成する。すなわち、「書かれてある事実を問うもの」、「推測を要するもの」、「生徒各自の意見を求めるもの」である。
- ② 語彙指導を組み込む。
- ③ リーディング以外の技能も各ラウンドに組み込む。
- ④ 十分な input から output へと移っていく。
- ⑤ 内容把握から推論や意見の発表へ。
- ⑥ 内容だけでなく、英語表現にも注意を向けるようなタスクも組み込む。
- ⑦ 教材提示単位は生徒の学力に応じて、本文全体またはパートごと、あるいは1～2パラグラフごとのように弾力的に決めてよいが、なるべく提示単位は少しずつ大きくしていく。

5. 先行研究

5.1 中学校におけるラウンド制指導法の実践

黒川(2019)は、中学2年生を対象に、ラウンド制指導法を用いた指導を1年間行い、スピーキング力にどのような影響を及ぼすかを調べた。その結果、ラウンド制指導法を用いない指導と比べて、ラウンド制指導法は、スピーキングの正確さ、流暢さ、および言語材料の定着に有効であったと報告している。また、特に、英語力の上位群と中位群のスピーキング力に有効であったとしている。

黒川(2020)では、中学2年生および3年生を対象に、1年間および1年8か月の間、ラウンド制指導法を用いて指導を行い、ラウンド制指導法を用いない指導

と比べて、スピーキング力にどの程度影響するかを調べた。その結果、2年生および3年生のスピーキング力は、スピーキングの正確さ、流暢さ、および言語材料の定着において、ラウンド制指導法を用いない指導を上回るほどの影響は及ぼさなかったと報告している。その理由として、ラウンド制指導法を用いた処置群と用いなかった対照群とでは生徒個々の教育環境が異なることから、指導法のみによる厳密な比較ができなかったためとしている。

5.2 高校におけるラウンド制指導法の実践

鈴木(2007)では、高校生を対象に、ラウンド制指導法による指導を実践し、リスニングテスト、読解速度、センター試験の自己採点、記述式模試の平均点において、従来型の指導法による指導と比較した結果、上述の4つすべてにおいて、ラウンド制指導法が従来型の指導法を統計的に有意に上回ったとしている。また、ラウンド制指導法による指導を受けた生徒のおよそ90%が、「ラウンド制指導法の方が学習しやすく、力がつく」と感じていると報告している。

藤田(2012)では、高校1年生を対象に、ラウンド制指導法による指導を行い、全国模試による偏差値を用いて、文法訳読式の指導と比較した結果、ラウンド制指導法と文法訳読式指導法とでは、英語力の伸びに差がないことを報告している。また、ラウンド制指導法の授業に対するアンケート調査を行った結果、授業の理解において、84%の生徒が「よく理解できる」または「まあ理解できる」と回答し、英語力の向上の有効性について、84%の生徒が「とてもそう思う」または「まあそう思う」と回答していると報告している。

藤田(2013)では、高校1年生を対象に、ラウンド制指導法による授業を行った結果、特に英語力の中位群の英語力の伸びに、ラウンド制指導法は有効であるとしている。また、アンケート調査の結果から、学生はラウンド制指導法による授業はわかりやすく、楽しいと感じていることを報告している。

藤田(2020)では、高等学校において教科書を用いたラウンド制指導法による授業を行った結果、ラウンド制指導法が、学習指導要領で要請されているコミュニケーション能力を育成する方法として有効であるとしている。

高田(2010)は、高校の読解の授業における、和訳と文法・語彙の説明に終始する「知識注入型」による指導の問題点を改善すべく、ラウンド制指導法を行った。その結果、ラウンド制指導法を用いることで、授業中に教師が説明をする時間が

減り、その分生徒自身がタスクを解きながら能動的に学ぶ時間が増え、学習者中心の授業が実現できるとしている。また、タスクを与えるたびに、生徒が英文を読むことになることから、授業中に英文を読む量も大幅に増やすことができるとしている。

6. ラウンド制指導法を用いた実践例

6.1 本実践の対象者

実践の対象者は、大阪府内の私立大学の1年生20名である。この20名の多くは、卒業後に中学・高校の英語教員、あるいは、小学校の教員として英語を教えることを目指している。学生の英語力は、CEFRのA1レベルである。

6.2 使用テキストおよび教員が準備する教材

テキストは、「English Stream Elementary」(竹内・住・藪越・植木・Cotsworth, 2019)を使用する。テキストの他に、語彙リスト(資料1)、ワークシート、日英対訳シート(資料2)、音声ファイルを作成する。詳細は6.6で述べる。

6.3 本実践の到達目標

到達目標として以下の5つを設定した。

- 1) 様々なジャンルや話題の英語を聴いて(読んで)、目的に応じて情報や考え方を理解することができる。
- 2) 聴いて(読んで)理解したことを、自分のことばで人に伝えることができる。
- 3) 聴いて(読んで)理解したことに関する自分の考えをまとめて発表したり、やり取りをすることができる。
- 4) 様々な話題について、目的や場面、状況等に応じて英語で書くことができる。
- 5) 複数の領域を統合した言語活動を遂行することができる。

6.4 本実践における指導の流れ

ラウンド制指導法は、教材の難易度と学生の英語力に応じて、カスタマイズする必要があり(藤田, 2012)、本実践では表2に示した7つのラウンドに分けて指導する。またラウンドに入る前に、Pre-ラウンドとして、教材の内容に対する背景知識の活性化を行い、未習得構文を指導する。

表 2 本実践におけるラウンド制指導法の指導過程

Pre ラウンド:	スキーマの活性化, 未習得構文学習
第 1 ラウンド:	未習得語彙学習後, リスニングで概要を理解する。
第 2 ラウンド:	リスニングしながら黙読して要点を理解する。
第 3 ラウンド:	リスニングやリーディングによる細部の理解をする。
第 4 ラウンド:	パラグラフの構成と展開法を分析後, 必要があれば, 難しい英文の構造説明, 和訳, 及びその英文を暗唱できるほどに徹底的に音読練習をする。
第 5 ラウンド:	理解した教材英文を多様な方法で音読する。
第 6 ラウンド:	音読による復習後, 「日英通訳練習」, 「英問英答」, 「サマリー」, 「リテリング」のうち 1 つか 2 つの再生活動を行う。
第 7 ラウンド:	理解した内容について自分の考えを英語でまとめ, それを見ずに発表したり, 話し合ったりする。他者の発表を聴いたり, 話し合ったりする際には, 必要に応じてメモを取る。

6.5 ラウンド制指導法を行う前に準備する教材

6.5.1 語彙リスト (巻末の資料 1 を参照)

語彙リストには, あらかじめ教員が意味を与えるものもあるが, 資料 1 の「日本語」欄の「G」で示した文脈や前後関係などから意味を類推させるものと, 同じく「D」欄で示した辞書を使って意味や用法を調べさせるものも用意する。リストに載せる単語や熟語は, 教科書に重要語句とされているものなどを中心に, 学生の語彙力を判断して教員が選んで構わないこととしている。

6.5.2 音声ファイル

教科書付属の CD を用いて, 句や節単位に 1~2 秒のポーズを入れた音声ファイルを別に用意し, 英文を黙読させる際のペースメーカーとして用いる。CD の朗読が区切る意味のまとまり毎に 1~2 秒のポーズを入れるか, 学生の理解度に応じて, さらに細かい意味のまとまり毎にポーズを入れても構わないこととしている。

6.5.3 ワークシート

次節の 6.6 に示す英文の内容に関する質問を複数用意し, 学生に配布する。

これらの質問がラウンド制指導法がうまくいくかどうかに関わってくるため、十分に教材研究を行った上で、前述の 4. で示した 3 つの観点から作成することが重要である（鈴木，2007）。また、教科書にある質問や、教授用資料に用意されている質問を参考にすることも可能である（高田，2010）。

6.5.4 日英対訳シート（巻末の資料 2 を参照）

資料 2 のように意味のまとまり毎に区切った英文に、日本語訳をつけたものを用意する。日本語訳は、英文に対する直訳を付ける方が学生にはわかりやすいため、意識にならないように気を付ける。また、資料 2 の日英対訳シートは、学生が英文の内容を十分に理解した後の第 6 ラウンド以降に配布する。

6.6 ラウンド制指導法の指導例

本論文では、“English Stream Elementary”（竹内他，2019）の“Unit1 To Drive or to Ride?” を用いた授業実践例を報告する。

6.6.1 教材例

以下に使用した教材例を示す。

第 1 パラグラフ

If you live in a big city, you may find that it is better to use public transportation than to own a car. This is because trains and buses are cheaper, safer, and better for the environment than cars. First, owning a car is expensive. You must pay not only for the car, but also for the fuel, repairs, and parking. When all the costs are added up, public transportation is almost always much cheaper. Second, taking public transportation is safer than driving a car. Although bus and train accidents do happen, they are rare, and they do not often result in serious injury. However, car accidents happen every day, and they sometimes cause serious injury or even death. Finally, buses and trains use far less energy than cars. This helps to keep the air clean. Although most cars use less fuel than buses, they often carry only one person. One bus, on the other hand, can carry 75 people or more. Energy use per person is much less for people who ride the bus. Trains are even more efficient, carrying hundreds of people at a time. Therefore, if you want to

save money, stay safe, and save energy, public transportation is the way to go.

第 2 パラグラフ

If you live in the countryside, however, a car might be a better choice. Public transportation only makes sense in areas where many people live and work. What if you can't get to a bus or train stop within a few minutes? What if the bus or train cannot get you to where you are going within a short period of time? In such cases, a car makes more sense. Also, public transportation is not energy-efficient if only a few people use it. This is why you will not see as many buses or trains outside of big cities.

6.6.2 指導手順

表 2 に示した手順で授業を行った。

Pre ラウンド

教科書にある写真を用いたり，大学に通う際にいつも利用している交通手段を学生に尋ねるなどして，スキーマを活性化させる。その次に，教科書の英文に出てくる未習得の構文を説明するが，その際に教科書の本文を例文としては使用しないようにする。

第 1 ラウンド

英文パッセージの全体を学生に読ませ，パッセージの構成を考えさせる。

(1) 未習得語彙の学習

資料 1 の語彙リストを配布し，1 回目は語彙リストなしで，2 回目以降は語彙リストを用いて，下記の手順で単語・熟語の音声と意味を定着させる。これは，パッセージ全体を通してでも，各パラグラフ毎に行ってもよい。但し，この段階では，G 欄と D 欄の日本語は言わず，発音のみ指導する。なお，T は教員，Ss は学生を示している。

T: 「日」 → 「英」 → Ss: 「英」(まねる) → T: 「英」 → Ss: 「英」(まねる)

(2) 内容の概要理解

図 1 に示した質問が書かれたワークシートを配布し，各パラグラフのタイトルを提示して，本文に書かれているものを選びせ，内容の概要を理解させる。タ

イトルには本文には書かれていないものも入れておく。

第一に、句や節単位にポーズを入れた CD の朗読をペースメーカーにして、教科書の英文を黙読させ、タイトルの中から、本文に書かれていたものを選ばせる。この段階ではまだ正解は言わないようにする。

次に、上述の CD の朗読をペースメーカーにして、教科書の英文をパラグラフごとに黙読させ、①の 1～5 のタイトルの中から、本文に書かれていたものをパラグラフごとに選ばせる。学生が回答した後、①と②を併せて答えを確認する。

図 1 ワークシート例

① 下記のタイトルから本文に書かれてあったものを選びましょう。

- | |
|--------------------------------|
| 1. () 田舎での望ましい交通手段と理由 |
| 2. () 都会での望ましい交通手段と理由 |
| 3. () 都会で暮らすためにかかる費用 |
| 4. () 都会と田舎での事故の発生件数の違い |
| 5. () 都会での重傷者の数、事故発生の頻度 |

② 上記の中から、各パラグラフで書かれてあったことを、パラグラフごとに選びましょう。

- | |
|-------------------|
| パラグラフ 1 () |
| パラグラフ 2 () |

第 2 ラウンド

パラグラフ毎に英文を読ませ、何が書かれているか、要点を理解させる。

(1) 未習得語彙学習

語彙リストの D 欄（辞書で調べさせる語句）の意味を調べさせ、下記の手順で単語・熟語の音声と意味を定着させる。この段階では、G 欄（類推させる語句）の意味は与えない。

T: 日 → Ss: 英 (音読) → T: 英 → Ss: 英 (まねる)

(2) 内容の要点理解

パラグラフ毎に，図 2 に示したように，本文の要点を問う質問を与え，句や節単位にポーズを入れた CD の朗読をペースメーカーにして，英文を黙読させる。

なお，第 3 ラウンドの細部理解の質問の答えを探すことが，第 2 ラウンドの答えのヒントとなることがあるため，この段階では答えの確認は行わないようにする。

図 2 本文の要点を問う質問例

パラグラフ 1

Q1. 都会での望ましい交通手段は何ですか？

Q2. その理由は何ですか？

パラグラフ 2

Q3. 田舎での望ましい交通手段は何ですか？

Q4. その理由は何ですか？

第 3 ラウンド

パラグラフ毎に英文を読ませ，何が書かれているか，細部の内容を理解させる。

(1) 未習得語彙学習

語彙リストの G 欄（類推させる語句）の意味を確認し，下記の手順で単語・熟語の音声と意味を定着させる。

（日本語を隠して） T:英 → Ss:日（言う） → T:英 → Ss:英（まねる）

（英語を隠して） T:日 → Ss:英（言う） → T:英 → Ss:英（まねる）

(2) 内容の細部理解

パラグラフ毎に，図 3 に示したように，本文の細部を問う質問を与え，句や節単位にポーズを入れた CD の朗読をペースメーカーにして，英文を黙読させる。学生の理解度に応じて，質問のヒントになるキーワードや答えが書かれている場所を教える。

この段階で，第 2 と第 3 ラウンドを併せて，答えの確認を行うようにする。

図 3 本文の細部を問う質問例

パラグラフ 1

Q5. 筆者が公共交通機関をすすめる理由は何ですか。

Q6. 5行目の **all the costs** とは具体的に何ですか。

パラグラフ 2

Q7. 筆者が挙げる自家用車の利点は何ですか。

Q8. 筆者が挙げる自家用車の欠点は何ですか。

Q9. 公共交通機関においても自家用車においても、もし乗車する人数が少な
ければ、どうなると筆者は指摘していますか。

第 4 ラウンド

第 3 ラウンドで示した語彙指導を変形ペアワークで行う。学生 A が学生 B に自分の語彙リストを渡し、学生 B は学生 A の反応をチェックする。学生 A の答えが間違っていたり、正解しても反応が遅かったりすれば、語彙リストの E→J または J→E のチェック欄（資料 1）に「正」の字を記入する。終われば役割交代をする。

続いて、パラグラフの構成や展開法を確認した後、学生が理解しにくい文構造について説明した。そして、それらの文の和訳をさせたり、音読（**Read aloud, listen and repeat, Backward build up, Read and look up** 等）をさせるなどして、文章の形式と意味を定着させる。

第 5 ラウンド

理解した教科書の英文全体を様々な手法を用いて音読させる。以下に手法の例を示す。

第一に、音読練習を行う前に、本文の内容から推測させる質問（推論発問）を以下の Q10, Q11 のように与える。

Q10. この筆者は交通手段にはどちらの方を多く使っていると思いますか？

Q11. どんな場合に車を使っていると思いますか？

また、どんな場合に公共交通機関を使っていると思いますか。

次に、音読練習を行う。

ここでは、**Overlapping, Overlapping with pens on the text, Shadowing,**

Reading aloud with pens on the text 等の手法を用いて、音読指導を行う。

前記の Q10 と Q11 の答えは、十分に音読練習を行ったうえで、ペアやグループワークで意見を交換させたりなどした後、クラス全体で確認する。

第 6 ラウンド

音読による復習後、「英問英答」（個人の意見を問う質問）や「日英通訳演習」の再生活動を以下のように行う。この活動はどちらか一つでも構わない。

(1) 英問英答

教科書で学習した英文内容に関して、個人の意見を問う質問を以下の Q12 から Q14 のように与える。その際、できるだけ教科書で学習した英文を使用するよう指導する。また、基本的に英問英答にするが、学生の英語力に応じて、英語で答えさせる前に日本語で答えを書かせてもよい。

Q12. Which do you prefer, using public transportation or owning a car? Why?

Q13. Point out good points and bad points that are not mentioned by the author.

Q14. What else do you think you have to pay for?

学生が書いた英文は教員がすぐに英文の誤り等を訂正するのではなく、間違いのある箇所を示唆したり、助言を与えたりする。そして教員からのフィードバックをもとに学生が書き直したものを添削し学生に返却する。このやり取りを 2～3 回繰り返す。また、実際に英文を書かせるのは授業内ではなく授業外の課題としてもよい。

(2) 日英通訳演習

日英対訳シートを配布し、英文全体の内容を確認させたいうえで、様々な音読活動を行う。授業ではシートにあるいくつかの英文のみを音読し、音読のやり方を説明し、残りの英文は各自授業外で音読練習するよう指示する。

第 7 ラウンド

Q12～14 に対する自分の意見を、ペアあるいはグループワークで英語で発表させる。この時、ワークシートに英語で書いた自分の意見等を読み上げないように指導し、その後メンバーを入れ替えるなどして、2～3 回発表させるようにする。

7. まとめと今後の課題

本稿では、ラウンド制指導法についての概略と、大学英語授業で使用される教科書を用いて、ラウンド制指導法に基づいた4技能の指導例を報告した。中学・高校における実践とは、1回あたりの授業時間、また1週間における授業回数において大きく異なるため、毎回の授業時に必ずreviewの時間を設け、前回の授業内容の振り返りを行った。また、本実践の対象者の英語力は、CEFR A1レベルとあまり高くないことと、ラウンド制指導法による指導に慣れていないことから、授業の進度が速くならないように留意した。本実践では、教科書の1課に90分授業を4回かけて、様々な方法を用いて、いろいろな角度から指導を行った。

ラウンド制指導法では、原則として予習をする必要はないが、復習として内容を十分に理解した英文を徹底的に音読することが求められる。大量に音読指導を行うことで、リスニング力や理解を伴ったリーディングの速度が向上することから(鈴木, 1998)、本実践では、授業内で日英対訳シートを用いて学習した英文の音読指導を行った後、授業外課題として学習した英文を徹底的に音読することを課した。そして、教科書の次の課に進んでからも、前の課で学習した英文を口頭で英作させる小テストを行うなどして確認し、定着するまで何度も繰り返した。

また、ラウンド制指導法は、教員であれば誰にでも実践できる方法(鈴木, 2007)と言われているが、あらゆるタイプの英文に対応できる唯一無二のものではなく、また説明文や随筆といった英文のタイプに応じた、いわゆる方程式のようなものは存在しない。そのため、ラウンド制指導法の成否に関わるとされる様々なワークシートの作成、中でも特に質問の作成には、教員としての経験値が必要である。

本実践の対象となった授業は、通年(全30回)の授業だが、本稿では前期(15回)での実践を紹介した。ラウンド制指導法が、大学英語教育が目指すコミュニケーション能力を育成させ、またしっかりとした英語力を定着させる方法として有効であるか、1年間の指導の後、その指導効果を検証する必要がある。またより良い授業を実践するために、ラウンド制指導法で指導された学生の反応についてもアンケート調査を実施する必要がある。今後の課題としたい。

【引用文献】

- 大谷杏・ミューリ真紀子（2021）.「大学生の英語授業と英語学習に関する意識調査」『福知山公立大学研究紀要』5(1), 75-87.
- 藤田賢（2012）.「『ラウンド制指導法』を用いた教科書を使った英語で行う授業の研究」『中部地区英語教育学会紀要』41, 221-228.
- 藤田賢（2013）.「高校英語授業における『ラウンド制指導法』と『文法訳読法』による効果の比較」『中部地区英語教育学会紀要』42, 269-274.
- 藤田賢（2020）.「高校英語授業におけるラウンド制指導法による実践例とその効果」『人間文化』35, 99-117.
- 黒川愛子（2019）.「日本人中学生のスピーキング力育成に対する『ラウンド制指導法』の有効性に関する実証研究—中学2年生段階での活用—『LET 関西支部研究収録』17, 31-55.
- 黒川愛子（2020）.「日本人中学2年生・3年生のスピーキング力育成に対する『ラウンド制指導法』の効果に関する実証研究—スムーズな小中接続に向けて—『LET 関西支部研究収録』18, 99-124.
- 鈴木寿一（2007）.『平成18年度 Super English Language High School 研究開発実施報告書』京都外大西高等学校.
- 鈴木寿一（1998）.「音読指導再評価—音読指導に関する実証的研究」『LLA 関西支部研究収録』7, 13-28.
- 高田哲朗（2010）「ラウンド制リーディング指導法」門田修平・野呂忠司・氏本道人（編著）『英語リーディング指導ハンドブック』152-157頁 東京：大修館書店.
- 竹内理・住政二郎・籾越知子・植木美千子・Brent Cotsworth（2019）. *English Stream Elementary* インプットからアウトプットへ：初級編 東京：金星堂.

資料 1 : 語彙リスト

語彙リスト		Unit1 To Drive or to Ride?		
E→J	行	英語	日本語	J→E
Paragraph 1				
	1-2	public transportation	公共交通機関	
	2	own a car	G 車()	
	3	expensive	G ()	
	4	fuel	燃料	
	5	add up	～を加算する	
	7	rare	めったにない, まれな	
	8	result in	～の結果となる	
～中略～				
Paragraph 2				
	17	make sense	D ()	
	19	get 人 to 場所	D ()	
	19	within a short period of time	短時間のうちに	

資料 2 : 日英対訳シート (一部のみを掲載)

Unit1 日英通訳演習シート		
	日本語	英語
1	もしあなたが大都市に住んでいるのならば,	If you live in a big city,
2	思うかもしれません。	you may find
3	公共交通機関を利用する方がよいと	that it is better to use public transportation
4	車を持つよりも	than to own a car.
5	もしあなたが大都市に住んでいるのならば, 車を持つよりも公共交通機関を利用する方がよいと思うかもしれません。	If you live in a big city, / you may find / that it is better to use public transportation / than to own a car.
6	なぜかと言うと	This is because
7	電車やバスは, より安く, 安全であり, そして環境にもよい	trains and buses are cheaper, safer, and better for the environment
8	車よりも	than cars.
9	なぜかと言うと, 電車やバスは車と比べて, より安く, 安全であり, そして環境にもよいからです。	This is because trains and buses are cheaper, safer, and better for the environment than cars.
10	まず第一に,	First,
11	車を所有することは (費用が) 高くつきます。	owning a car is expensive.
12	あなたは払わなければなりません。	You must pay
13	車だけでなく,	not only for the car,
14	燃料代, 修理代, そして, 駐車代も	but also for the fuel, repairs, and parking.
15	あなたは車だけでなく, 燃料代, 修理代, そして, 駐車代も払わなければなりません。	You must pay / not only for the car, / but also for the fuel, repairs, and parking.